

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679200099
法人名	有限会社こぼれ陽
事業所名	グループホームこぼれ陽
訪問調査日	平成19年11月8日
評価確定日	平成20年2月29日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4679200099		
法人名	有限会社こぼれ陽		
事業所名	グループホームこぼれ陽		
所在地	鹿児島県大島郡天城町天城烏組783番地 (電話) 0997 - 85 - 4073		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48 - 13		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	4 人	常勤 4人、非常勤	人、常勤換算 4 人

(2)建物概要

建物構造	木造 平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,500 円	その他の経費(月額)	300 円
敷金	有(0円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1080 円		

4)利用者の概要(11 月 8 日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳之島徳洲会病院、天城歯科診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歩いていける民家が隣近所であり、緑多いゆったりとした空間にある。グループホーム自体も民家を増改築した一軒家であり又各部屋も以前住んでいた家族の個室を利用しており、入居者が自分の部屋であるという雰囲気自然に感じられる。高齢者のいる一般家庭とあまりかけはなれない雰囲気づくりになっている。食材も自家製の野菜・卵・果物など慣れ親しんだ物を自分たちで育て料理し楽しく食している。入居者も穏やかに日常生活を営んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念をパンフレットに明記し掲示もして関わる人達への取組みもしている。外部評価後の意見も取り入れて行くように全職員で話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価に全職員で取り組み、一人一人が考え方を共有し、サービスの向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目	開催が少ないこともあり、運営推進会議を十分に活用できていない。今後、定期的な開催を計画している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目	家族のホームへの訪問も多く、暮らしぶりをみてもらい、意見・苦情・要望も聞くようにしている。相談がしやすいように居宅のケアマネージャーも相談窓口になれるよう家族へ話している。苦情・相談を通じ、より良い運営への反映の取組みを考えている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	家族の人が地域の人を連れてきたり、クリスマス・夏祭り・幼稚園の運動会・敬老会等多くの行事へ参加し、地域との関わりをもてるようにしている。
	近隣住居とは普段のお付き合いや緊急時の通報依頼など密な連携がある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたの家族・地域社会と協力」「あなたが地域の中で幸せに暮らせるように努める」「あなたを理解しあるがままを愛し、意志を尊重し、生きがいを探す」などを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼・ミーティング時に唱和し、介護支援の中で実現できるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族が地域の人を連れてきたり、クリスマスには子どもたちもきている。町の夏祭り・幼稚園の運動会・敬老会に参加し、地域との関わりを機会がある毎にもっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、指摘された事項について改善へむけて取り組んだ。外部評価での意見も取り入れていくよう全職員で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催が少ないこともあり、今後は定期開催を考えている。	○	今後定期開催をし、推進会議での意見等を活かし、サービスの向上につながる取り組みが求められている。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催会議に参加し、認知症ケアについての理解や取組みを要請し、町とともにサービスの質の向上へつなげていけるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族のホームへの訪問も多く、その時に暮らしぶりを見てもらい、領収書・出納帳を確認してもらっている。金銭・生活・健康状況を説明し、家族の意向を聞いている。		
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や不満・苦情を聞く努力をしている。相談をし易くするために、居宅のケアマネージャーも相談窓口になれるよう家族へ話している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動のないように気を配り、異動の場合はなじみの関係をもちながら交代するように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望があれば、テキスト購入など必要な資料取得の支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区GH研修会で交流をしている。他のホームと2名づつの交流研修を行ったり、最近町内に設立したホームとの交流にも取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接やショートスティを取り入れながらお互いになじみができるように進め、本人が納得して入居できるように時間をかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者にグループホームのまわりにある薬草を教えもらい、一緒に取りに行き、洗ったりきざみ・干しをして薬草づくりをしている。洗濯も一緒にすることで支えあう関わりを心がけている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の行動をじっくり観察し、行動の理由を推測して支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	昼食後に毎日ミーティングで状態を話し合いみんなの意見を集約し、利用者本位の介護計画を半年に一回作成している。 同意の署名押印が確認できない。	○	介護計画は、本人・家族等の同意を得たことを確認できるようにすることが望まれる。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングにて日常生活に変化があるときにはその都度プランの見直しをしている。 家族の同意署名押印が確認できない。	○	必要に応じて、見直した介護計画については家族等への説明と同意を求めることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援・受診支援など多くの要望に対応をしている。ターミナルケア・見取り・葬式等、本人・家族等の要望に応える支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ターミナルケアの取組みでかかりつけ医との関係づくりを重視している。家族や本人、又ホームも含めて安心・納得して進められる医療の確保に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・急変・終末期の対応として家族との話し合いをして、方針の共有に取組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄での失敗時などに他人に解らないように配慮した支援をしている。個人情報保護法への配慮では職員に徹底し、指導もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴など本人のペースに合わせて支援をしている。本人の意志を確認し、希望にそって支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に準備できる人が数人おり、ホームの畑で取れた、にんじん・かぼちゃ・トウガン・パパイアを洗ったり切ったりできるところまで担当している。楽しみながらつくり、楽しい食事を一緒に摂っている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入床時間帯の希望に合わせて入浴や夏場に汗をかけた後のシャワーが希望通りできる支援を行っている。利用者が採取し、作った薬草のヨモギを楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望で外食に出かけたり、遠足等で気晴らしの支援をしている。役割分担で洗濯たたみや、食事の下ごしらえ・後かたづけ・食器洗い・配膳をしている。お手玉・ゲートボールが好きな人の支援もしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に寄って話しをして来たり、散歩など日常的な外出をしている。入居者と一緒に、近所の独居の方に、町からの宅配弁当配達を週3回実施し外出の楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について理解しており、鍵は閉めずにいる。地域の習慣として夜間も施錠していない。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火避難訓練は年1回実施している。近隣住民には通報依頼・消防・警察との協力依頼もしている。台風には備えて食器又飲料、トイレ用水もある。	○	夜間想定訓練の実施が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足は排泄・異常行動・脱水への影響もあり十分配慮している。栄養士にバランス・カロリー計算してもらった献立にそって栄養摂取ができる支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には自前の草花を生け、音楽も時間に合わせた適切な音量で調整されていた。 玄関先では食事までできるテーブルもあり、屋外の食事も取り入れている。風通しがよく開放的な空間で、テーブル・ソファの配置も適度におかれて居心地よく工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一軒家を改装・増築しており、実家での部屋と思わせるような居心地さがある。 自分の使い慣れた道具の持ち込みもあり、居心地よく生活ができる居室になっている。		